

ナウル語文法ノート ①

Notes on Nauruan Grammar Part 1

岡村 徹

Toru Okamura

公立小松大学

Komatsu University

ナウル語は、オーストロネシア語系の言語とされ、赤道直下にあるナウル共和国で話されている。初回はナウル語の重複現象について、Rensch (1993) の資料を基に考えてみたい。

ナウル語においても当然、重複現象は認められるが、形態論的にはやや複雑である。まず、単一動詞がその形態を変えずにもう一度繰り返される形式がある。これは形態論的には完全重複法 (Complete Reduplication) と呼ばれ、最も一般的な形態法である。以下の用例 (1)～(3)。オセアニアの他の言語でも、例えばモトウ語 au ‘木’、au-au ‘木々’、ハワイ語 mana ‘枝’、mana-mana ‘小枝’、トク・ピシン karim ‘運ぶ’、karim-karim ‘運び続ける’。

- | | |
|---------------|-------------------|
| (1) nana 行く | nana-nana いつも行く |
| (2) baka 爆破する | baka-baka 絶えず爆破する |
| (3) mado 損傷する | mado-mado 激しく損傷する |

次に、その単一動詞がやはりもう一度繰り返されるが、動詞と動詞の間に母音が挿入される形式がある。以下の用例 (4)～(6)。

- | | |
|---------------|----------------------|
| (4) gor 腐る | gor-e-gor とても早く腐る |
| (5) rig 生まれる | rig-e-rig 大勢生まれる |
| (6) din ～を形作る | din-e-din ～を繰り返して形作る |

三つ目に、単一動詞の第一音節のみが繰り返される形式がある。形態論的には不完全重複法 (Incomplete Reduplication) と呼ばれる。以下の用例 (7)～(9)。この形態法は、オセアニアの言語に広く見られる。例えば、ニューギニアのモトウ語では tau 人、ta-tau 人びと、同じくニューギニアのトライ語では、rat ‘籠’、ra-rat ‘(複数の) 籠’、ハワイ語 make ‘死’、ma-

make ‘(多くの) 死亡件数’。

- (7) edegeri ~の後について行く ed-edegeri ~を追い払う
 (8) goro 走る go-goro ~を車で連れて回る
 (9) ara 伝える ar-ara 繰り返し伝える

四つ目に、語末の音節が繰り返される形式がある。以下の用例 (10)～(12)。

- (10) kamae ほえる kamae-ae 騒ぐ
 (11) buro 泡立てる buro-ro 激しく泡立てる
 (12) tiribo 振動する tiribo-bo ゆでる

次に、重複現象の意味の問題を考える。

まず、上記(1)の例にあるように、習慣を表す用法がある。例(2)は動作の継続を表す。多くのオーストロネシア語系の言語でも見られる。例えば、ニューギニアのモトウ語 badu ‘怒る’、badu-badu ‘怒り続ける’。例(3)は強調を表すと言える。同じくモトウ語 haraga ‘早く’、haraga-haraga ‘とても早く’。それから上記(5)にあるように、重複によって多数であることを表すこともできる。これは複数性を表す機能に近いと考えられる。同じくモトウ語でも、tau ‘人’、tatau ‘人びと’。

Sapir (1921) は、重複現象の根幹的な意味は、動作の継続または繰り返しであると述べている。ナウル語も例外ではない。

The functions are even more exuberantly developed than with simple duplication, though the basic notion, at least in origin, is nearly always one of repetition or continuance.

Sapir (1921: 76-78)

この他にも注意すべき用法が二つある。一つは、元の単一動詞と重複語化したそれとで意味に差がないものがある。このような例は、オセアニアの他の言語でも散見されるが、まだ詳しいことはわかっていない。

もう一つは元の単一動詞と重複語化したそれとで意味的に連関しないものがある。本来なら、この例はここで取り上げるべきではないけれども、意味上の史的变化が起きた可能性もあるため、ここでは問題点を指摘するだけに留めておきたい。(つづく)

参考文献

- 岡村徹 (2016) 「日本語とモトウ語の対照言語学的研究：指小辞をめぐって」『帝塚山学院大学
研究論集』51: 1-17
- Rensch, K. H. (1993) *Nauru Grammar*. Canberra: A Publication of the Embassy of the
Federal Republic of Germany.
- Sapir, E. (1921) *Language: An Introduction to the Study of Speech*, New York : HARCOURT,
BRACE (泉井久之助訳『言語 ことばの研究』紀伊国屋書店 1957年)